

第7回上毛電気鉄道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会 議事概要

日時：2025年6月30日（月）14：00～16：00

場所：前橋市中央公民館（前橋プラザ元気21
内）501・502会議室

群馬県前橋市本町二丁目12番1号

※Teams 併用のハイブリッド開催

1 開 会

2 会長あいさつ

3 委員の紹介

4 議 事

- （1）令和6年度協議会における取組状況の振り返りについて
- （2）令和6年度協議会会計監査報告
- （3）令和7年度協議会事業計画の変更について
- （4）令和7年度協議会予算の変更について
- （5）今後のスケジュールについて
- （6）その他

5 その他

6 閉 会

【配布資料】

- 資料 0 議事次第
- 資料 0－1 第 7 回上毛電気鉄道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会 出席者名簿
- 資料 0－2 第 7 回上毛電気鉄道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会 配席表
- 資料 1－1 令和 6 年度協議会における取組状況の振り返り
- 資料 1－2 上毛電気鉄道の今後のあり方に関する基本方針
- 資料 2－1 令和 6 年度協議会事業実績
- 資料 2－2 令和 6 年度協議会収支決算
- 資料 2－3 令和 6 年度協議会会計監査結果報告書
- 資料 3－1 令和 7 年度協議会に係る事業計画・収支予算の変更について
- 資料 3－2 令和 7 年度協議会事業計画（案）
- 資料 3－3 令和 7 年度協議会収支予算（案）
- 資料 4 今後のスケジュールについて

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 委員の紹介
4. 議事

4.1 令和6年度協議会における取組状況の振り返りについて

<事務局より資料 1-1, 1-2 に基づき説明>

《意見等》

■令和6年度協議会における取組状況の補足説明について

【吉田会長(福島大学・前橋工科大学)】

- ・ 事務局からの説明について補足する。上毛電気鉄道の利用状況はコロナ後に回復基調である。利用者の特徴としては、通学定期の割合が高いことが挙げられる。通過人員をみると、都市部に集中するのではなく、区間に関わらず路線全体で平準化している点が特徴的である。
- ・ 輸送量やアンケート調査結果よりバス交通への代替は難しいことが分かり、鉄道の優位性が確認された。一方で、営業損失や給与水準の低さ、大規模修繕は先送りになっている等、経営面では厳しい状況にある。
- ・ 経営スキームを検討する必要がある中で、資料 1-2 のとおり、上毛電気鉄道ではみなし上下分離として、さらに前向き投資を行っていこうという方針を昨年度までにとりまとめた。加えて、今年度からは、鉄道だけでなく、土地利用等の自治体による政策推進や、沿線住民の意識醸成に向けた取組を合わせて検討していく必要がある。

4.2 令和6年度協議会会計監査報告

<事務局より資料 2-1, 2-2, 稲田委員より資料 2-3 に基づき説明>

《意見等》

特に意見なし。

4.3 令和7年度協議会事業計画の変更について

4.4 令和7年度協議会予算の変更について

<事務局より資料 3-1, 3-2, 3-3 に基づき説明>

《意見等》

■令和7年度協議会予算減に伴う今後の対応について

【吉田会長(福島大学・前橋工科大学)】

- ・ 議事3と議事4は内容が関連するため、一括で審議とする。

【仙波委員(東武鉄道㈱経営企画本部 課長)】

- ・ 予算減に伴う変更について致し方ないと思うが、本協議会とは別に、上毛電気鉄道の再生協議会があり、令和9年度が期限となっている。計画策定が後ろ倒しになることで再生協議会への影響があれば、教えていただきたい。

⇒【事務局】

- ・ 当初は令和7年度に地域公共交通計画を策定、令和8年度に特定実施計画策定、令和9年度に社会総合交付金の活用を想定していた。予定より半年ほど遅れることになるが、今後の進捗に応じて関係者と調整していきたいと考えていきたいと考えている。

【仙波委員（東武鉄道㈱経営企画本部 課長）】

- ・ 承知した。再生協議会の動きも踏まえ、引き続き対応をお願いしたい。

【古川委員（桐生市共創企画部交通ビジョン推進室長）】

- ・ 今年度は、計画策定のために各自治体で予算化を図った。来年度に計画策定が繰り越されることについて、各自治体の負担のあり方を教えてほしい。

⇒【事務局】

- ・ 来年度は、国庫補助を改めて要求した上で取り組む予定だが、十分に確保できない可能性がある。検討自体は来年度も継続するが、予算の確保によって検討が後ろ倒しとならないよう、新たな予算確保のスキームを考えているところである。

⇒【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ 本来は、適切に予算がつけられるべきであると考えている。ただし、全国的にも補助が削られている現状であり、したたかに考えていく必要がある。

■令和7年度協議会における経営サポート体制の議論予定について

【橋本委員（上毛電気鉄道㈱取締役社長）】

- ・ 今年度協議会回数が減ることで、経営連絡分科会の報告が中途半端になるのではないかと。
- ・ また、経営サポート体制の議論について、協議会での取扱を教えてください。

⇒【事務局】

- ・ 当初、3鉄のサポート体制の方向性は、夏頃に一定の方向性を決め、9月頃の協議会で報告予定であったが、委託業者と検討する中で、結論を夏までに出すことは難しいことが分かり、年度末の協議会で報告することとした。そのため、9月頃の協議会は1回減らしても影響はないと考えている。ただし、経営連絡分科会の中では、夏頃に中間報告として原案を提示し、関係者と意見をすり合わせながら進めていきたいと考えている。
- ・ 2点目のサポート体制については、今年度は群馬県より日本総研へ委託業務を発注している。群馬県が責任をもって検討を進めた上で、検討結果を協議会で報告し、議論を踏まえて来年度以降に地域公共交通計画等に反映していきたいと考えている。

【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ 資料3-2の事業計画をみると、経営連絡分科会の内容が8月は計画策定検討、2月は計画検討となっているが、違いは何か。基本方針もまとまっている今、どの段階でどのような議論を見込んでいるか、もう少し具体化しておくとうれしいと感じた。今の段階で提示できるものはあるか。

⇒【事務局】

- ・ 8月の経営連絡分科会では、業務の共通化、サポート体制の案を提示して意見をいただきたい。また、公共交通計画に定める前向き投資策なども議論したいと考えている。
- ・ 2月の経営連絡分科会では、さらに具体的なものとして、3鉄の業務の共通化、前向き投資策に関する事業化案について議論したいと考えている。その上で、3月の法定協議会で方向性の報告を予定している。

⇒【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ 8月に第1案を議論した後、個別に調整した上で2月に具体的に議論をして、3月協議会で報告がある流れで理解した。

⇒【事務局】

- ・ ご認識のとおりである。先ほど説明にもあった通り、10月にはオンラインで経営連絡分科会を開催し、担当者レベルでの意見のすり合わせを行いたいと考えている。

⇒【吉田会長(福島大学・前橋工科大学)】

- ・ コミュニケーションがとれるよう、対面の場を工夫されたい。会場費が問題であれば、上毛電気鉄道や前橋工科大学の会議室を借りる等、委員の皆さんで協力するなども考えられる。

⇒【佐羽委員(関東運輸局地域公共交通マイスター)】

- ・ サポート体制の検討について、委託業者に検討を依頼して、結果の良し悪しを議論するように聞こえた。
- ・ 資料1-2では沿線住民の意識醸成が大事だと記載がある。先日のみどり市でのワークショップでも、住民意識の転換と醸成が大事であるという話が出て、その通りだと考えている。住民の意識醸成に関して、委託業者から提案があるのか、それを議論する場合は別途設けられているのか、事務局の考えを教えてください。

⇒【事務局】

- ・ 日本総研には、3鉄のサポート体制の検討を委託しており、住民の意識醸成の検討には関係していない。住民の意識醸成の取組みについては、経営連絡分科会の中で議論していく話である。
- ・ なお、サポート体制の検討は日本総研に全て任せきりではなく、事業者ヒアリングには県も同席し、検討のサポートを委託している。

⇒【吉田会長(福島大学・前橋工科大学)】

- ・ 昨年度まとめられた基本方針は、メディアでも報じられ、これから検討が進められる段階である。一方で、計画策定は後ろ倒しになり、取組の推進までにタイムラグが生まれる。やむを得ないが、世間の心が離れてしまうことが気がかりである。例えば阿武隈急行線では、昨年後半に存続と費用負担が決定し、検討が完了した感じになっているが、部会を再開し、メディアも呼んで世間の心が離れない工夫を行っている。

■住民参画のための意見交換について

- ・ 今年度の検討は、かなり技術的な議論になり、一般的には理解しにくいいため、幅広い発信や、意見を交わす場が重要であると考え始めている。
- ・ 例えば、各市で既存の住民参画の機会を活用して、上毛電気鉄道をテーマに入れてもらうことはできないかと考えたが、各市で予定はあるか。

⇒【橋本委員(前橋市未来創造部交通政策課長)】

- ・ 内容の詳細は未公表だが、9～10月頃に市長を囲んだタウンミーティングを行う予定である。その場の議論で話題にすることは可能であると考ええる。

⇒【古川委員(桐生市共創企画部交通ビジョン推進室長)】

- ・ 市長と市民が対話するまちづくりミーティングは定期的に行っている。特定の団体が対象のため十分に活用できるか分からないが、考えていきたい。

⇒【青木委員(みどり市政策企画部企画課長)】

- ・ 地域公共交通計画策定に向けて交通会議を発足しており、その場を活用することは考えられる。

【吉田会長(福島大学・前橋工科大学)】

- ・ 各市で機会はあるそうであることは分かった。やり方は経営連絡分科会でも議論できればいい。

■上毛電気鉄道の運賃や交通結節について

【大島委員(上毛電鉄友の会代表)】

- ・ 資料1-1の2ページ目にある、二次交通へのアクセス性について、鉄道と路線バスの連携が非常に重要であると考えている。
- ・ 運賃問題も重要で、アンケート調査結果では値上げも許容するとの意見があったが、上毛電気鉄道とデマンドバスの価格差を考えていく必要がある。
- ・ かつて、太田市までの直通列車が走っており、利用しやすいものであった。ダイヤをよりよくして、路線バスとも連携しながら利用しやすいものにしてほしいと考えている。

⇒【吉田会長(福島大学・前橋工科大学)】

- ・ 上毛電気鉄道は30分に1本のダイヤで、終電は前橋市内で最も遅く、良いサービスは提供されている。運賃の費用負担や交通結節については、今後検討の余地があることから、1つのテーマとして経営連絡分科会で議論できると良いと感じた。

【吉田会長(福島大学・前橋工科大学)】

- ・ 経営連絡分科会での検討事項について、具体的に議論が進められたように感じている。
- ・ 協議会に係る収支予算については、特段異議はなかったと認識している。
- ・ 事業計画、収支予算の変更について、原案のとおり異論はないか。

＜全会一致で可決＞

4.5 今後のスケジュールについて

＜事務局より資料4に基づき説明＞

《意見等》

■上電通信の発行時期と配布方法について

【大島委員(上毛電鉄友の会代表)】

- ・ 来月2月発行予定の上電通信は、協議会の開催と合わせて発行時期を検討いただきたい。

⇒【事務局】

- ・ 上電通信を発行している前橋市と調整し、対応する。

⇒【吉田会長(福島大学・前橋工科大学)】

- ・ 協議会の事前に発行することで、興味のある人への情報提供につながるため、対応いただく。

⇒【岩波委員(桐生商工会議所総務課 主事)】

- ・ 上電通信について、ぜひ過去2回の発行内容を開示いただきたい。また、インターネット等で広く発信することを検討いただきたい。
- ・ また、上電通信の配布方法と入手方法を教えていただきたい。

⇒【事務局】

- ・ 協議会での配布は今後検討する。
- ・ 配布方法は各市に一任しているため、回答いただきたい。

⇒【古川委員（桐生市共創企画部交通ビジョン推進室長）】

- ・ 公民館で配布している。

⇒【青木委員（みどり市政策企画部企画課長）】

- ・ 公民館や公共施設で配布している。

⇒【橋本委員（前橋市未来創造部交通政策課長）】

- ・ 各施設への設置に加えて、毎戸配布もしくは回覧板を回している。

⇒【事務局】

- ・ 前橋市では、1号のみHPで公表されている。
- ・ 自治体と連携して、県HPリンクを掲載いただくなど、広い広報を工夫したい。

⇒【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ HPは検討いただきたい。加えて、上毛電気鉄道の車両内に掲載するなど、広く利用者にも届く方法を工夫いただきたい。
- ・ 協議会の開催時期を踏まえた上電通信の発行と、配布方法については事務局の宿題として検討いただく。

4.6 その他

《意見等》

■今後の実施内容について

【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ 本日の協議会ではまず、昨年度までの振り返りを行った。今年度の事業内容について、昨年度からの変更点を議論した。特に、経営連絡分科会の中での議論の内容と、上電通信の発信方法を中心に議論した。
- ・ 予算が削られている中での検討であるが、やるべきところはしっかりやっていく必要があるため、委員の皆さんには引き続き協力いただきたい。

【佐羽委員（関東運輸局地域公共交通マイスター）】

- ・ 新里駅前でのイベントに関するパンフレットを預かってきたので紹介する。7月19日に上毛電気鉄道の新里駅で「新里駅まつり」が開催される。一昨年に引き続いての開催となる。駅前広場などを利用して、地元企業や市民活動団体を中心に、「上毛電気鉄道に乗って遊びに来てください」という趣旨で地域を盛り上げるイベントである。

【橋本委員（前橋市未来創造部交通政策課長）】

- ・ 前橋市が舞台であるアニメ「前橋ウィッチーズ」について、上毛電気鉄道のラッピング車両が7月7日（月）から運行予定である。1日1回のみではあるが、かなり話題になると考えている。

以上